

令和 7 年 12 月 12 日  
都市局公園緑地・景観課

## 令和 6 年に国立競技場 2 個分の屋上緑化が創出 ～全国屋上・壁面緑化施工実績調査の結果～

令和 6 年には、約 14.5ha の屋上緑化、約 4.6ha の壁面緑化が新たに創出されました。

屋上緑化・壁面緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、美しく潤いのある都市空間の形成、都市の脱炭素化等に寄与し、全国的に取り組みが進められています。

国土交通省では、平成 12 年から全国の屋上・壁面緑化の施工実績調査を行っており、この度、令和 6 年の調査結果をまとめました。

### 1. 調査結果（施工面積）

#### (1) 単年施工面積

令和 6 年に、屋上緑化は国立競技場<sup>※1</sup> 約 2 個分に当たる約 14.5ha、壁面緑化は約 4.6ha が施工されました。

※1 国立競技場：約 6.96ha.

#### (2) 累計施工面積

調査を開始した平成 12 年から令和 6 年までの 25 年間<sup>※2</sup> で、屋上緑化は約 633ha、壁面緑化は約 131ha が施工されました。

※2 本調査は最大 3 年間遡った回答を依頼しているため、令和 5 年、令和 6 年データは暫定値であり、来年度以降の調査の結果、数値が変わる可能性があります。

### 2. 近年の特徴的な傾向

近年 企業事務所の屋上緑化において、複合植栽<sup>※3</sup> の施工面積が単植の事例よりも大きくなっています。このような植栽は暑熱対策、生物多様性の保全およびオフィスワーカーの Well-being の向上に貢献します。詳しくは「トピック」をご覧ください。

※3 植栽の主体が 2 種類以上組み合わせられたもので、中高木やタケ類の植栽を含む。

#### （参考）調査の概要

- ①調査方法： 郵送によるアンケート調査
- ②調査対象企業： 全国の造園建設会社や総合建設会社、屋上・壁面緑化関連資材メーカーなど 計 562 社
- ③回答回収状況： 回収 306 社（回収率 54.4 %）
- ④調査対象期間： 令和 6 年 1 月 1 日～令和 6 年 12 月 31 日



企業事務所での複合植栽の屋上緑化の例  
(光亜興産株式会社)

#### <問合せ先>

都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 峰寄、森山

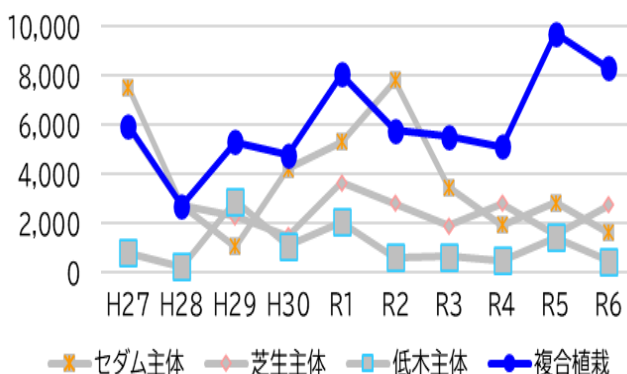
TEL：03-5253-8111（内線 32912、32945）、03-5253-8420（直通）

## トピック

ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全に加え、都市におけるオフィスワーカーの心身の健康（Well-being）や生産性の向上といった、複数の課題に対する解決策の1つとして、「事務所」に「複合植栽」による屋上緑化を設置する傾向が見られます。

右のグラフは企業事務所の屋上緑化で選択される主な植栽タイプについて、直近10年間の施工面積の動向を示したものです。「複合植栽」はH28年を除き、高い水準の施工実績を維持し、コロナ禍以降落ち込んだものの、R5年は施工が増加しました。「複合植栽」の屋上緑化は中高木を含むため、単植の事例より暑熱対策、生物多様性の保全に高い効果があります。さらにポストコロナ時代では、オフィスワーカーの心身の健康（Well-being）と生産性の向上を図るためにアメニティ空間が重視されており、質の高い屋上庭園や「複合植栽」へのニーズが高まっていると考えられます。近年の事例を紹介します。

直近10年間の事務所の屋上緑化における  
主な植栽タイプ別の施工面積（㎡）



## 「立体緑園都市」を体現した複合植栽

### 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー（東京都港区）

虎ノ門エリアの回遊性を高め  
多様なニーズを満たす

2023年に開業した虎ノ門ヒルズ ステーションタワーは、虎ノ門ヒルズ駅と一体的に開発された、多用途複合の超高層タワーです。地上・地下・デッキレベルの重層的な交通ネットワークを強化・拡充し、虎ノ門ヒルズエリア全体の回遊性の向上と賑わいの創出にも貢献しています。

### 「立体緑園都市」を体現する、 都市と自然の共生

本建築は、都心の限られた空間で屋上・壁面・外構や室内等、環境の異なる様々な場所で、多様な緑地に触れ合える設計となっており、「Vertical Garden City（立体緑園都市）」を体現しています。休憩時間、外出時等、建物の出入り時は緑地を目にする動線となっており、オフィスワーカーの心身の健康（Well-being）を増進させる狙いがあります。

またこれらの緑地はヒートアイランド現象を始めとする環境負荷の低減はもちろん、近隣の緑地と連携し、生物多様性の確保を期待されています。



休憩時間を屋上緑化空間で過ごすオフィスワーカー。リフレッシュに活用されている。



ワーカーの往来時に必ず目に触れる複合植栽の屋上緑化。

### 植栽配置図



都心で働くオフィスワーカーの心身の健康維持のために、屋上・壁面・室内の緑化が多用されている。

### 諸元

敷地面積	13,960 ㎡
建築面積	10,730 ㎡
屋上緑化面積	3,500 ㎡
階数	地上49階 地下4階
完成時期	2023年



## 多様な複合植栽が快適な職場空間づくりに寄与

### 光亜興産株式会社 本社ビル（大阪府門真市）

#### 多様で快適な働き方を実現する事務所

本社ビルの建替えにより 2022 年に造られた本建築は、地域の資源である良好な緑環境を活かして執務環境を向上させることが意識されました。

事務所空間には、オフィスワーカー同士の活発なコミュニケーションを促進する環境、集中しやすい環境、リラックスして気分転換できる仕組みを取り入れ、多様で快適な執務環境を実現しています。

#### ワーカーのリフレッシュに貢献する、窓辺から見える緑

窓際からは常に緑が視界に入ようになっており、オフィスワーカーの生産性の向上やストレス緩和等を図り、快適な環境となることが意識されています。屋外テラスは、仕事の合間や休憩時間に、緑あふれる景色を見ながらコミュニケーションを取る場として、また心身をリラックスさせる場として利用されます。

屋上庭園や壁面緑化では、階や方角それぞれの環境要因を考慮し、その空間特性に適した多様な植物種を採用した複合植栽としています。ハーブ類を導入することにより、香りなど五感にも訴え、人と植物が関わる空間を積極的に創出しています。最上階の屋上庭園や3F 西面には日光を遮る樹木を植栽し、暑熱を緩和する設計となっています。

■ 全景



北に隣接する公園や西側の街路樹と連続した緑の景観。

■ 2-3 階テラス



オフィスワーカーのリフレッシュにも活用される複合植栽の屋上緑化。

#### 諸元

敷地面積	: 672 m <sup>2</sup>
建築面積	: 527 m <sup>2</sup>
屋上緑化面積	: 166 m <sup>2</sup>
階数	: 地上 5 階
完成時期	: 2022 年

■ 5 階ラウンジ



屋上緑化や近隣の緑がオフィスワーカーの視界に入る環境。

## ワークスタイルの選択肢を広げる複合植栽の緑地

### BLUE FRONT SHIBAURA TOWER S ※1 期工事（東京都港区）

#### ひとりひとりに寄り添った働き方が用意されたオフィス

「BLUE FRONT SHIBAURA」は事務所を含むツインタワーを建設する大規模複合開発です。その日の仕事内容やマインドに合わせオフィスワーカーが主体的に働く場所を選べるよう、複数の選択肢を用意することで生産性を向上させることを意図した設計となっています。

#### 居心地の選択肢としての複合植栽の緑化空間

複合植栽の屋上緑化を含む緑化空間「GREEN WALK」は、身近に自然と親しむことで心身の健康回復を促進する「都市自然浴」をコンセプトとしており、オフィスワーカーが緑に囲まれて仕事をする選択肢を与えます。

この場所に留まらず、屋内外の多くの場所に緑化空間が設けられており、仕事の合間や休憩時間で緑化空間に触れることにより、心身をリフレッシュする助けとなります。

■ スカイラウンジ



空・海・緑を感じながら都心で働くワークスタイルの提唱。

■ 2 階パブリックスペース



オフィスワーカーの作業や休憩等に使われる、屋上緑化に面したスペース。

■ オフィ斯拉ウンジ



オフィス共用部には屋内緑化を多用。

■ 全景



壁面緑化も大規模（1 期面積：3,056 m<sup>2</sup>）

■ GREEN WALK



緑地の質と量の観点から評価され、国土交通省の「TSUNAG」認定でトリプル・スター（★★★）も取得。

#### 諸元

全体敷地面積	: 約 40,104 m <sup>2</sup>
全体建築面積	: 約 29,800 m <sup>2</sup>
1 期屋上緑化面積	: 約 1,800 m <sup>2</sup>
1 期規模	: 地上 43 階、地下 3 階
1 期完成時期	: 2025 年